

編集の序

こんにちは！ 本書を手にとってくださって本当にありがとうございます！

救急の現場では、たくさんの医療者がたくさん的小児を診てくださっています。しかし、小児救急のトレーニングを受けた医療者はまだまだ少ないので現状です。小児は成人よりも軽症が多いものの、そのなかにごくわずかですが重症が潜んでいます。救急外来に子どもを連れてくる保護者は、わが子の具合が悪いと感じて受診していますが、医学的な重症度・緊急性を判断することは困難です。そのため、小児救急にかかる医療者は、困っているすべての患者さんをまずは診て、判断をして、“結果的に”軽症とわかった患者さんには、安心をお届けするとともにホームケアの指導を行い、診療のバトンを渡します。一方で、軽症でない患者さんには適切な初期対応を行い適切な医療資源につなげます。そのプロセスと結果を通して、患者さんとご家族のHAPPYのために貢献することが小児救急に携わる者の使命だと僕は思っています。

本書の特徴は小児救急について**タイプよく**、**自分で考えることで身につける**ことがあります。また、小児救急との対比で**成人救急も学べます**。短時間で学べるように内容を細かく区切り、それぞれをQ & A形式でいます。例えば救急車を待つ数分間に、小児救急を専門とする上級医から「これ知ってる？」と聞かれたことに読者が答えるようなイメージです。Q & A形式で考えること、さらに各項目の最後の確認問題を解くことで、「知らなかったことへの気づき」と「学んだことの定着」をめざします。わからなければすぐに回答を読み、再読の際にまた考えてみてください。

本書は「タイプよく」学ぶことを重視し、鑑別疾患の詳細なリストなどをあえて省いています。本書を読んでもっと深く学びたくなった方は、他の小児救急の本も読んでみてください。本書の対象読者である、初期研修医、小児科や救急科の専攻医、小児科や救急領域の看護師はもちろんのこと、小児の救急診療に携わる機会は多いけど外因を含めた小児救急の考え方について学びたいというベテランの方にも学びがある内容と思います。

“患者さんとご家族のHAPPYのために！”

2025年4月

兵庫県立こども病院 総合診療科
鉄原健一